

沖縄県医師会と沖縄銀行、 沖縄海邦銀行および琉球銀行による 「医業承継支援等に関する包括連携協定」の締結



理事 富名腰 亮

1. 開会・参列者紹介

令和8年4月20日(月)午後3時30分より、本会館において、本会と株式会社沖縄銀行、株式会社沖縄海邦銀行、および株式会社琉球銀行による「医業承継支援等に関する包括連携協定」の締結式が執り行われた。

本協定は、医師の高齢化や後継者不在といった課題に対し、各機関が相互に連携して円滑な医業承継を支援し、地域医療の質の維持・確保を図ることを目的としている。

冒頭、本会の田名毅会長、沖縄銀行の山城正保頭取、沖縄海邦銀行の新城一史頭取、琉球銀行の島袋健頭取の4名が紹介され、式は厳かな雰囲気の中で開会した。

(金融機関は五十音順にて掲載)

2. 各機関の代表挨拶

締結にあたり、各代表者から本取り組みへの期待と強い決意が述べられた。

沖縄県医師会 会長 田名 毅

皆さま、本日はお集まりいただきありがとうございます。現在、私たちが直面している『医業承継』という課題は、決して個々の医療機関の経営問題にとどまるものではありません。地域で長年培われてきた医療の灯を絶やさず、住民の皆さまの命と健康を支える地域医療提供体制をいかに次世代へつなぐかという、極めて重要な社会的使命を伴う課題です。これまで承継の相談はタイミングが遅れるケースが少なからずあったため、本会では早期に、かつ気軽にご相談いただけるよう常設の『医業承継相談窓口』を設置しました。この窓口の核となるのは二つの大きな柱です。一つは、地域の実情を熟知する地区医師会との連携、そしてもう一つは、本日協定を締結する金融機関の皆さまとの連携です。医師会が有する「地域の医療ネットワーク」と、皆さまの「専門性」が有機的に結びつくことで、持続可能な承継が実現できるものと確信しております。

沖縄銀行 代表取締役頭取 山城 正保

県内の医療機関、とりわけ地域に根差した病院やクリニックは、県民の命を守る掛け替えのない社会インフラです。しかし、後継者不足などの課題に直面する医療機関が年々増加している現状を、我々も重く受け止めております。本協定は、医師会が持つ現場の知見と、我々金融機関の事業承継ノウハウを掛け合わせることで、安定した医療提供と地域医療の発展につな

「医業承継支援等に関する包括連携協定」締結式

- 1. 日 時：2026年4月20日(月) 15:30～16:00
- 2. 会 場：沖縄県医師会館 2階 (第1会議室)
- 3. 参列者：一般社団法人沖縄県医師会 会長 田名 毅
 : 株式会社沖縄銀行 代表取締役頭取
 : 株式会社沖縄海邦銀行 代表取締役頭取
 : 株式会社琉球銀行 代表取締役頭取

※金融機関は五十音順に記載

4. 式次第：

- 開式(参列者の紹介) 司会(沖縄県医師会 富名腰理事)
- 各機関代表者挨拶
 - (沖縄県医師会) 会長 田名 毅
 - (沖縄銀行) 代表取締役頭取 山城 正保
 - (沖縄海邦銀行) 代表取締役頭取 新城 一史
 - (琉球銀行) 代表取締役頭取 島袋 健
- 調印セレモニー 司会
- フォトセッション 司会
- 閉式 司会
- ～参列者退席後～
- 質疑応答 運営事務局

げる画期的な枠組みです。また、本締結は企業の枠を超えた県内地銀3行が連携する革新的な取り組みであると考えております。本協定を通して、医療機関の皆さまの課題に寄り添った支援を沖縄フィナンシャルグループ一体となって全力で支援してまいります。

沖縄海邦銀行 代表取締役頭取 新城 一史

住み慣れた地域で安心して医療を受け続けられる環境を守ることは、金融機関にとっても大切なテーマです。今回、地銀3行が連携して参画することで支援の幅が広がり、開業や承継を希望される先生方に対して、よりきめ細やかな対応が可能になると期待しております。弊社としても、培ってきたノウハウを活かし、共同セミナーや個別相談を通じて先生方の想いに寄り添った支援に全力を尽くす所存です。

琉球銀行 代表取締役頭取 島袋 健

琉球銀行は中期経営計画において地域課題の解決を戦略の中心に据えており、医療分野を最重要領域と位置づけています。現場の先生方からは、『次世代の医療をより知ってほしい』『進むべき業界の姿を見てほしい』という切実な声も届いています。医療機関の承継は、地域の命を守るインフラを次世代へつなぐ公共性の高い取り組みです。我々は金融機関の枠を超え、『地

域の未来価値を創造するパートナー』として、強い使命感を持って本協定に臨んでおります。

3. 調印セレモニー・記念撮影

各代表者の挨拶後、協定書の署名が執り行われた。

田名会長、山城頭取、新城頭取、島袋頭取の順に署名が行われ、無事に包括連携協定が締結された。続いて行われたフォトセッションでは、4名の代表者が手を重ね合わせるポーズをとり、これからの強固な協力体制を象徴する記念撮影となった。

4. 質疑応答

締結式終了後、メディア関係者を交えた質疑応答が行われた。

Q：具体的にどのような役割分担で支援を行うのか

回答（小生）

基本的には、事業承継を希望する先生が頼りたい銀行を自ら選んでいただく形を想定している。医師会は窓口として相談を受け、先生方のニーズを伺いながら、金融機関と連携しマッチングを行う。特定の銀行をこちらから指定するものではなく、先生方の希望に寄り添い、共に進めていくための体制である。



左から順に、沖縄県医師会の田名毅会長、沖縄銀行の山城正保頭取、沖縄海邦銀行の新城一史頭取、琉球銀行の島袋健頭取

Q：沖縄県特有の課題や現状を伺いたい

回答（田名会長）

沖縄の医療を支えてこられた諸先輩方が70歳を超え、閉院を検討する時期に差し掛かっている。親族が医師であっても専門科が異なると継承できないケースもあり、また相談先がわからないまま閉院してしまうケースもある。この10年で那覇市内でもかなり増えている。特に離島や北部地域では深刻である。例えば、八重山地区では人工透析の需要が医療提供能力を上回っており、脳神経外科医が不在で搬送に頼らざるを得ない事態も起きている。こうした診療所や病院を地域に残していくことが、我々の大きな目的である。

Q：これまでの地区医師会単位の取り組みとの違いは

回答（小生）

これまでは一部の地区医師会と金融機関での連携はあったが、県医師会が担うことで、地区をまたぐ情報の共有が可能になり、広域なニーズにも柔軟に対応できるようになる。また、医師会が間に入ることで、勤務医の先生方も安心して最初の相談ができる環境が整ったと思う。

Q：相談窓口の稼働状況と今後の成果について

回答（小生）

本年3月に窓口を設置したばかりだが、既に5件の相談が寄せられている。今後は金融機関の皆さまと本協定に基づいた医業承継支援の連携や、共同セミナーを開催するなど、情報発信を強化していきたい。

【沖縄県医師会「医業承継相談窓口」のご案内】

沖縄県医師会では、地域医療の継続と発展のため、常設の「医業承継相談窓口」を設置しております。「高齢のため後継者を検討したい」「諸事情によりクリニックを譲渡したい」とお考えの【譲渡希望の医師】の皆さま、また、「地域に根差した承継による開業を希望している」【承継による開業希望の医師】の皆さま、まずはお気軽に本会窓口までご相談ください。医師会のネットワークと金融機関の専門性を活かし、秘密厳守にて、円滑な承継を全力でサポートいたします。

沖縄県医師会「医業承継相談窓口」TEL：098-889-0081

■お手続き方法について

以下のQRコードをダウンロードの上、必要事項をご記入いただき、事務局へご提出ください。



登録票（譲渡希望用）



登録票（承継開業希望用）

ご相談（ご提出）いただいた先生へ、事務局よりご連絡させていただきます。